# ももりんＭＩＭだより

小諸養護学校
センター的機能係
平成３１年１月１日
Ｎｏ．１０

いよいよ３学期になりました。３学期も行事があったり、学年のまとめをしたりと忙しいかと思いますが、それぞれのクラスの実情に合わせて工夫して毎日少しずつ取り組んでいただければと思います。「１年生でつまずく子どもたちを作らない！つまずいたまま２年生にはしない！！」という気持ちで一緒に取り組んでいきましょう。２年生については、クラスレポートがよくなってきているクラスが増えてきました。この調子で力をつけていきましょう。

## 佐久地区の１年生の MIM-PM の結果は？

「MIM に取り組むことにより読む力が伸びてほしい」と今年度取り組んできました。実際に読む力は伸びているでしょうか。MIM では４月から毎月 MIM-PM というアセスメントを行なっています。今回は佐久地区全体の MIM-PM の結果から考えます。

１２月現在で小諸養護学校と一緒に MIM-PM を実施している学級は１年生が１６学級の約３３０人になります。学級数で考えると佐久地区の４分の１の学級で取り組んでいることになります。早くから取り組んだ学級は５月から、最近取り組み始めた学級は１１月からの実施となり、実施回数は８回から１回です。

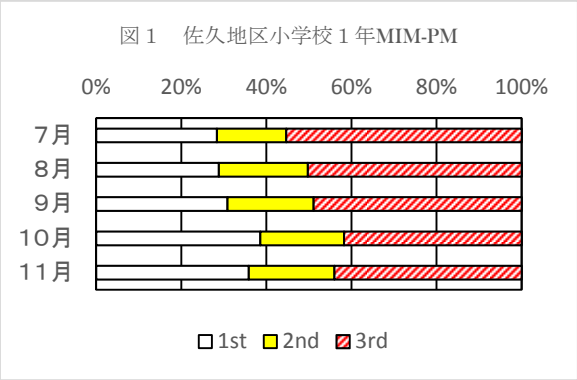


図１　佐久地区小学校１年MIM-PM

それぞれ学級のアセスメント結果の 1st、2nd、3rd のお子さんの数をまとめて１つのグラフにしました（図１）。グラフを見る上でいくつかの注意点があります。①途中から実施したクラスが増えたり、実施しなかった月があったりするので、母数は同じではありません。②１回目のアセスメント結果はアセスメントの方法に慣れていないこともあり、あまり良い結果になりません。そのため、正しい比較になっていない部分があります。③一部のクラスの評価は実施した月の標準点との比較ではなく、実施回数での比較となっているため、1st、2nd、3rd の評価が甘くなっています。そのため、2nd、3rd のお子さんの数は実際にはグラフよりも多い可能性があります。

７月から比べると、3rd のお子さんが減り、1st のお子さんが増えてきていることが分かります。1st のお子さんが増えてきているということは、着実に読みの力をつけてきているお子さんが増えているということになります。一方、3rd のお子さんが減っているということは、読みの正確さや流暢さで困っているお子さんが減ってきているということになります。先生方の学級での指導が成果を上げてきている部分です。しかし、まだ４割以上のお子さんが 3rd ステージです。3rd ステージは、補足的、集中的柔軟な形態による個に特化した指導を必要とするお子さんたちの群になります（図

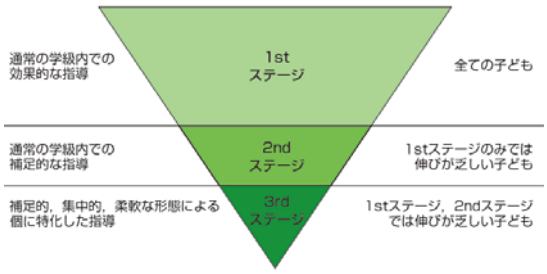


図2 通常の学級における多層指導モデル MIM

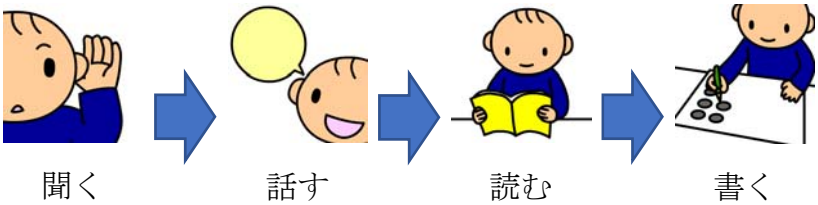
２)。１１月に４割以上のお子さんが 3rd ステージにいるというのは、おそらく全国平均と比べると多いのではないかと思います。「１年生が終わるまでに読みで困るお子さんをなくす」という目標に対して、現状は大変厳しいかもしれません。MIM-PM の実施だけでなく、日々の学習が大切になります。少しずつの取り組みでも、改善してきたクラスもあります。お子さんたちに無理のない範囲で取り組んでいけるようにお願いします。

今回は MIM-PM を実施している学級の結果から考察しました。MIM-PM を実施しているのは佐久地区の４分の１の学級になります。実施していない学校では、読みの状況はどうでしょうか。MIM の実施の有無にかかわらず、「１年生が終わるまでに読みで困るお子さんをなくす」という目標で考えていただけるとありがたいです。もし、これからでも実施したいという学校がありましたら、小諸養護学校までお問い合わせください。

# 漢字の学習

１年生も２学期からカタカナや漢字の学習がはじまっています。MIM-PM のときにあわせて言葉の学習を行っている学級では「漢字の体操」を取り入れて、漢字の基本パーツを体の動作を通して学習をすることを取り入れています。

ところで、漢字の学習について学習指導要領にどのように記載されているでしょうか。小学校国語の学習指導要領解説１７ページには「漢字の読みと書きについては，書きの方が習得に時間がかかるという実態を考慮し，書きの指導は２学年間という時間をかけて，確実に書き，使えるようにすることとしている。また，漢字の読みについては，当該学年に配当されている漢字の音読みや訓読みができるようにすることとしている。」とあります。




MIM の研修でも紹介しているように、ことばは「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の順で発達していきます。学習指導要領もそのことに沿って、まず、「読み」を当該学年でできるようにし、次の学年までに「書き」が確実にできるようにとされているのだと思います。学校では、ひらがなを学習するときも含めて字を学習するときに、「書き」を通して学習するように計画しがちですが、まずは「読み」ができるように学習の計画をしていただくと、漢字が嫌になるお子さんが減るのではないかと思います。例えば、漢字のテストも「書き」のテストで習得を確認するだけでなく、はじめは「読み」を線つなぎやひらがなで書くといった方法で確認して、「読み」の習得が確認できたところで、「書き」を確認すると学習の負荷が減るのではないかと思います。学級の実態に合わせて取り入れていただけるとありがたいです。

漢字がなかなか覚えられないお子さんには、３年生以上で実施できる「１・２年で習った漢字・熟語を使った３０問の漢字テスト」があります。これは「誤り分析で始める！学びにくい子への『国語・算数』つまずきサポート」という本で紹介されているものです。間違え方のパターンから、どうして漢字が覚えられないかを分析するもので、効果的な学習の方法が見つかるかもしれません。なかなか覚えられない場合も、本人の努力不足ではなくて、学び方があっていないためであれば、学び方を変えると覚えられるかもしれません。こちらも実施してみたい学級がありましたら、小諸養護学校までお問い合わせください。